

背景・目的

- 今次津波を踏まえた津波対策として、中央防災会議の専門調査会(※1)等において、「住民の生命を守ることを最優先として、どういう災害であっても最低限必要十分な社会経済機能を維持することが必要」とする考え方が示されました。
※1 中央防災会議東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波に関する専門調査会
- 今次津波の被災地域においては、地域の復旧・復興に向けた計画策定等の取り組みが本格化しつつあります。
- 復旧・復興計画の策定等を支援するため、迅速かつ適切な津波浸水シミュレーションを実施する必要があります。

手引きの特徴

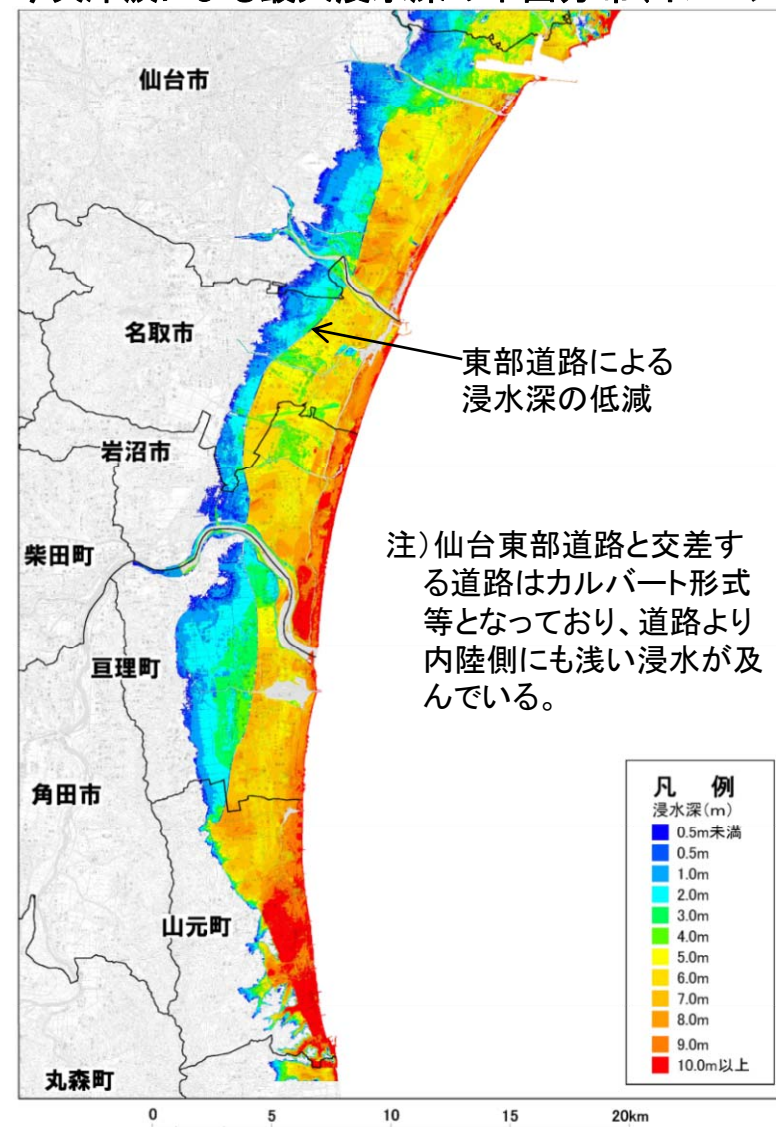
- 津波・高潮ハザードマップマニュアル(※2)の考え方を基本として、津波浸水シミュレーションを迅速かつ適切に実施するための標準的な方法や条件設定の考え方を、より具体的に示しました。
※2 津波・高潮ハザードマップマニュアル(平成16年3月、内閣府、農林水産省、国土交通省)
- 今次津波の被災地における基礎データの不足や時間的制約に対し、現実的な対応の方法についても例示しました。

津波浸水シミュレーションの役割1

津波リスクの分析・評価(最大浸水深の平面分布)

- 最大クラスの津波、頻度の高い津波、過去の実績津波など、様々な規模の津波について、津波浸水シミュレーションが可能になります。
- 津波浸水シミュレーションにより求められる最大浸水深を面的に把握することで、津波リスクの分析・評価に活用できます。
 - 復興まちづくりで検討される土地利用調整、避難地の設定、避難ビルの設置高さ等の検討に活用できます。
 - 海岸堤防について、被災時点、緊急復旧時点、完成時点の各段階に応じた津波リスクの分析・評価に活用できます。

今次津波による最大浸水深の平面分布(イメージ)



津波浸水シミュレーションの役割2

津波リスクの分析・評価(最大浸水深の横断分布)

- 最大クラスの津波、頻度の高い津波、過去の実績津波など、様々な規模の津波に対して津波浸水シミュレーションが可能になります。
- 津波浸水シミュレーションにより求められる最大浸水深の内陸方向の分布を把握することで、津波リスクの分析・評価に活用できます。

■代表断面における最大水位分布(イメージ)

